明石工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語Ⅲ

科目基礎情報

科目番号	4308	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	都市システム工学科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	前期：transfer course D トランスファー英語総合問題演習 4th edition 桐原書店／後期：Basic Understanding of the TOEIC L&R Test KINSEIDO,『データベース4500』萩野治雄（2年次より継続）, 『NextStage』 4th Edition 瓜生豊他（2年次より継続）		
担当教員	平川 裕己		

到達目標

·相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができる。
·日常生活や自分の身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できる。
·社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、簡単な意見交換ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に応用して役立てることができる。	相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができる。	相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができない。
評価項目2	日常生活や自分の身近なことについて、的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できる。	日常生活や自分の身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できる。	日常生活や自分の身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できない。
評価項目3	社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、意見交換ができる。	社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、簡単な意見交換ができる。	社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、簡単な意見交換ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	リスニング、文法、語彙、リーディングなどの個別スキルのレベルアップに加え、TOEICで高得点が狙えるよう英語力の向上を目指す。
授業の進め方・方法	単語の習得を確認する小テストの後、教科書を使った講義と演習を行う。授業で行った内容について復習をする。
注意点	毎時間の予習、復習をして授業に臨むこと。課題をきちんとこなすこと。 合格の対象としない欠席条件（割合）：1/4以上の欠課

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	授業概要説明 transfer D 英語総合問題演習	授業内容や課題について理解する。
		2週	Unit 1	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		3週	Unit 2	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		4週	Unit 3	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		5週	Unit 4	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		6週	Unit 5	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		7週	中間のまとめ	これまでの学習内容を復習する。
		8週	中間試験実施	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。
	2ndQ	9週	中間試験返却	弱点の克服を目指す。
		10週	Unit 6	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		11週	Unit 7	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		12週	Unit 8	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		13週	Unit 9	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		14週	Unit 10	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		15週	前期総復習	前期の学習内容について復習する。
		16週	期末試験	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。

後期	3rdQ	1週	期末試験返却 授業概要説明 Basic Understanding of the TOEIC L&R Test	弱点の克服を目指す。 授業内容や課題について理解する。
		2週	Unit 1	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		3週	Unit 2	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		4週	Unit 3	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		5週	Unit 4	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		6週	Unit 5	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		7週	中間のまとめ	これまでの学習内容を復習する。
		8週	中間試験実施	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。
	4thQ	9週	中間試験返却	弱点の克服を目指す。
		10週	Unit 8	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		11週	Unit 9	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		12週	Unit 10	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		13週	Unit 11	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		14週	Unit 12	レッスンの課題として設定されている語彙・文法などを習得する。
		15週	後期総復習	後期の学習内容について復習する。
		16週	期末試験	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前1,前2
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	前1,前2
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	前3,前4
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	前3,前4,前8
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	前5,前6
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	前5,前6
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2	前6,前7
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	前12,前13,後8
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	前14,前15,前16

				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	後1,後2,後8
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	後1,後2
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	後3,後4
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	2	後5,後6

評価割合

	試験	発表	相互評価	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0